

決算説明会

2011年3月期第1四半期

2010年7月30日
ミネベア株式会社

連結業績ハイライト

順調な回復が続いており、前四半期比でも売上・利益が大きく増加

(百万円)	2010年3月期		2011年3月期	前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	1Q	4Q	1Q		
売上高	51,837	60,461	67,891	+31.0%	+12.3%
営業利益	△605	5,494	6,024	黒転	+9.6%
経常利益	△1,101	5,185	5,600	黒転	+8.0%
税引前利益	△1,370	4,724	5,592	黒転	+18.4%
四半期純利益	△1,680	3,090	3,815	黒転	+23.5%
一株当たり 四半期純利益 (円)	△4.32	8.06	9.99	黒転	+23.9%

為替レート	10/3期1Q	10/3期4Q	11/3期1Q
US\$	97.50円	90.43円	92.81円
ユーロ	131.56円	126.07円	120.53円
タイバーツ	2.78円	2.73円	2.86円
人民元	14.28円	13.24円	13.60円

2010年7月30日

1

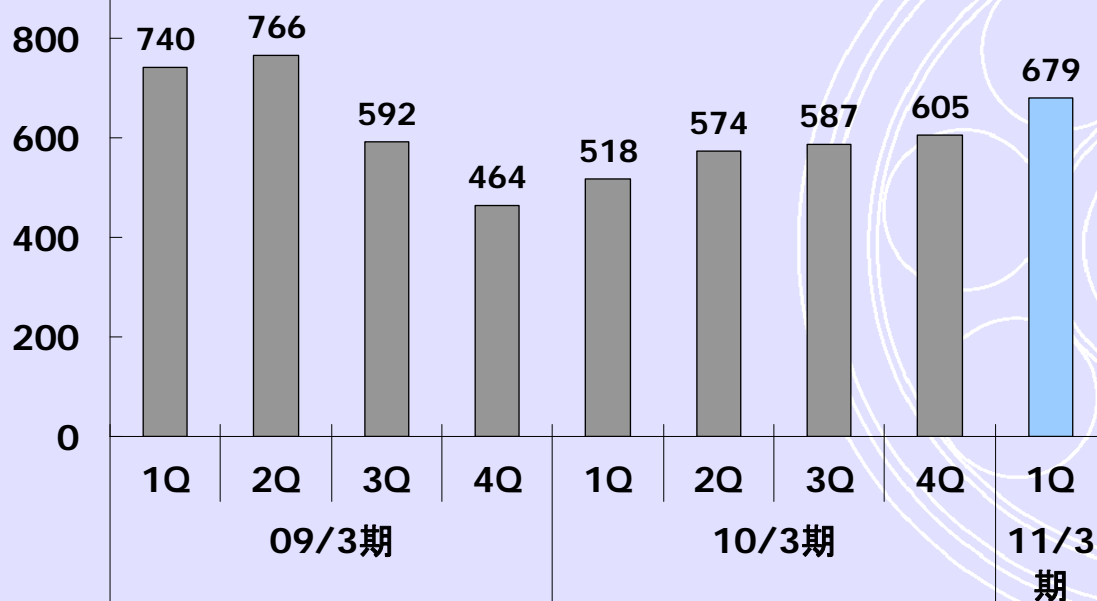


2011年3月期第1四半期連結業績は、売上高が前四半期比12.3%増の678億9,100万円、営業利益は9.6%増の60億2,400万円、四半期純利益は23.5%増の38億1,500万円となりました。

ボールベアリングの生産販売数量が増加したことや新たにDCブラシレスモーターが加わった情報モーター、計測機器の売上増加が営業利益の増加に寄与しました。

(億円)
1,000

前年同期比 +31.0%
前四半期比 +12.3%



2010年7月30日

2



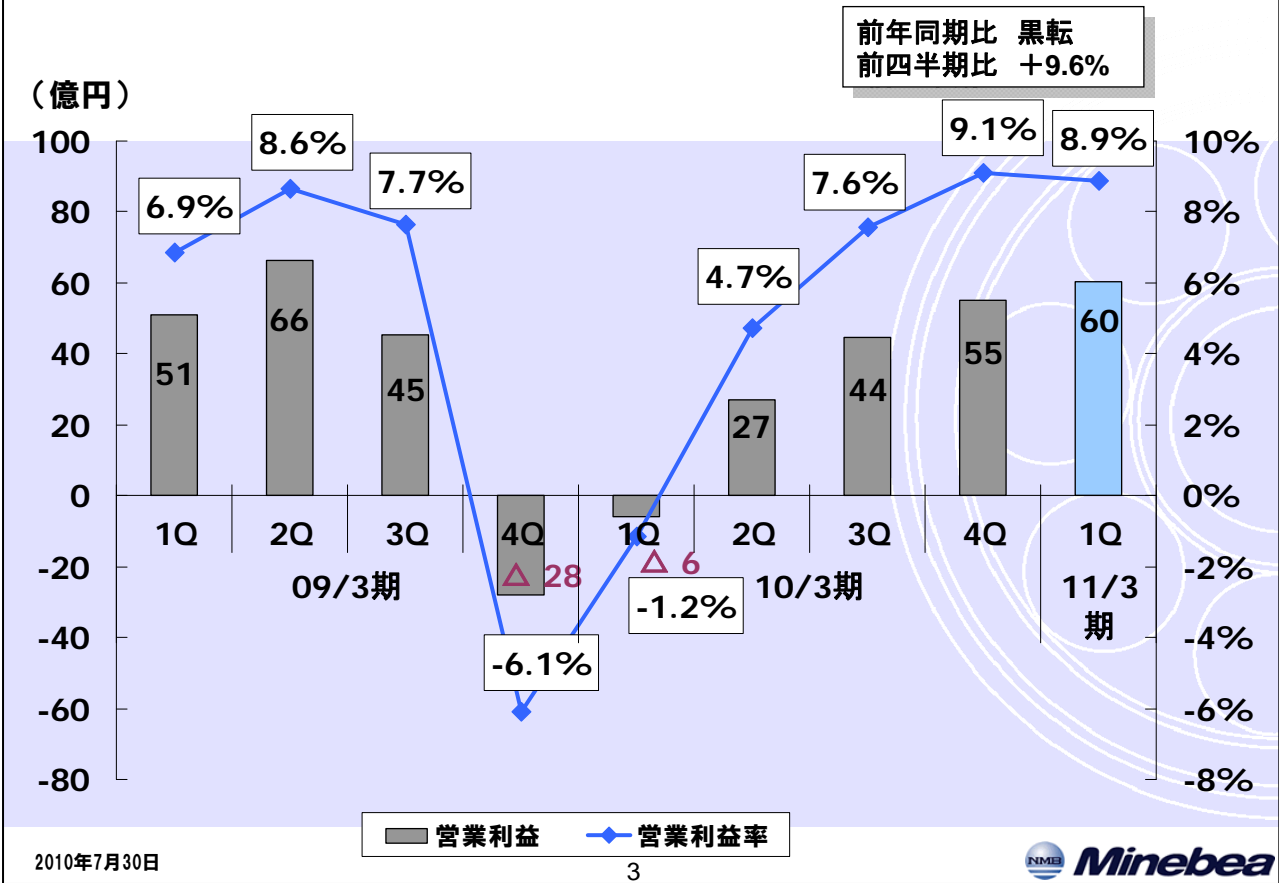
2009年3月期第4四半期を底に売上高は四半期ごとに回復してきています。

今期第1四半期では前四半期比12.3%増の679億円となり、また一段と大きな回復を示しました。ボールベアリングを筆頭に、様々な製品において販売の拡大が続いています。

為替の影響は、前四半期比で約8億円のプラスの影響、前年同期比で約24億円のマイナスの影響となりました。

営業利益

四半期推移



営業利益も2010年3月期に入り順調に回復を続け、今期第1四半期でも前四半期比9.6%増の60億円となり、更なる回復を続けています。

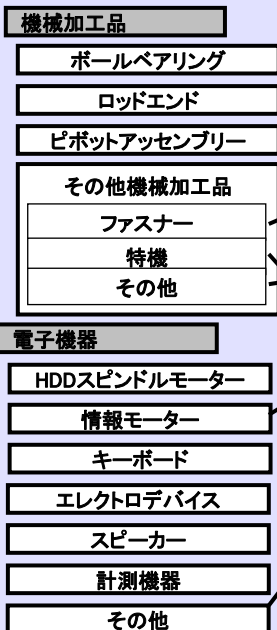
様々な製品の販売増加に加え、ボールベアリングは生産数量の増加に伴う製造原価低下の寄与が続いています。

為替の影響は前四半期比で約9億円のマイナスの影響、前年同期比では約14億円のマイナスの影響が出ています。

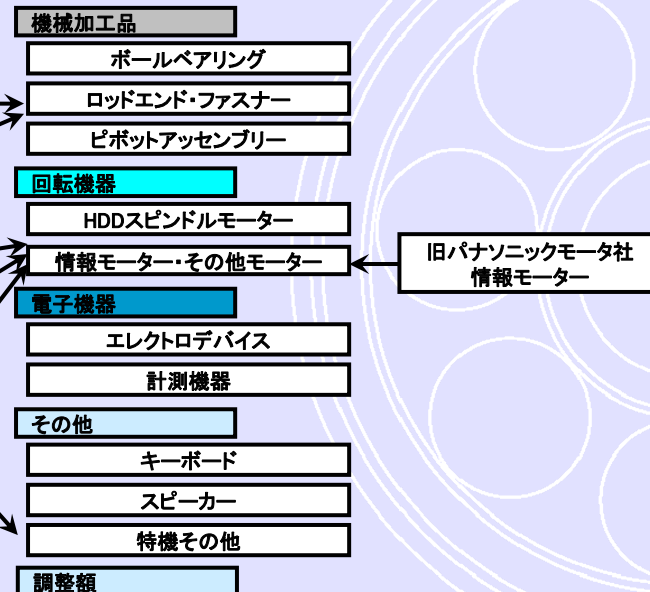
事業セグメントの変更

- ・企業会計基準の改正に従い、2011年3月期から事業セグメントを変更しています

旧セグメントと主な事業 (2010年3月期まで)



新セグメントと主な事業 (2011年3月期から)



2010年7月30日

4

NMB Minebea

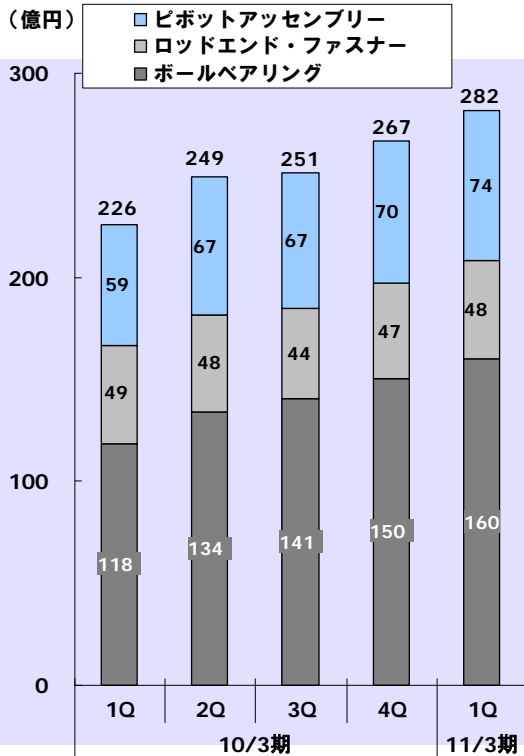
2011年3月期より企業会計基準の改正に従い、事業セグメントを変更しています。

新たな事業セグメントは、機械加工品、回転機器、電子機器、その他、調整額の5セグメントとなります。

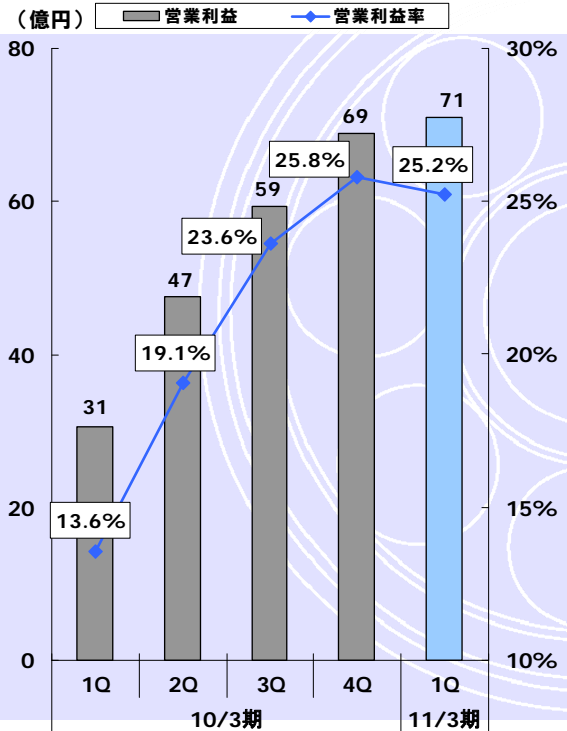
新セグメントに含まれる主な事業と製品群は図の通りになります。

以下、この新セグメントに基づいて、各セグメントの状況をご説明します。

売上高



営業利益



2010年7月30日

5

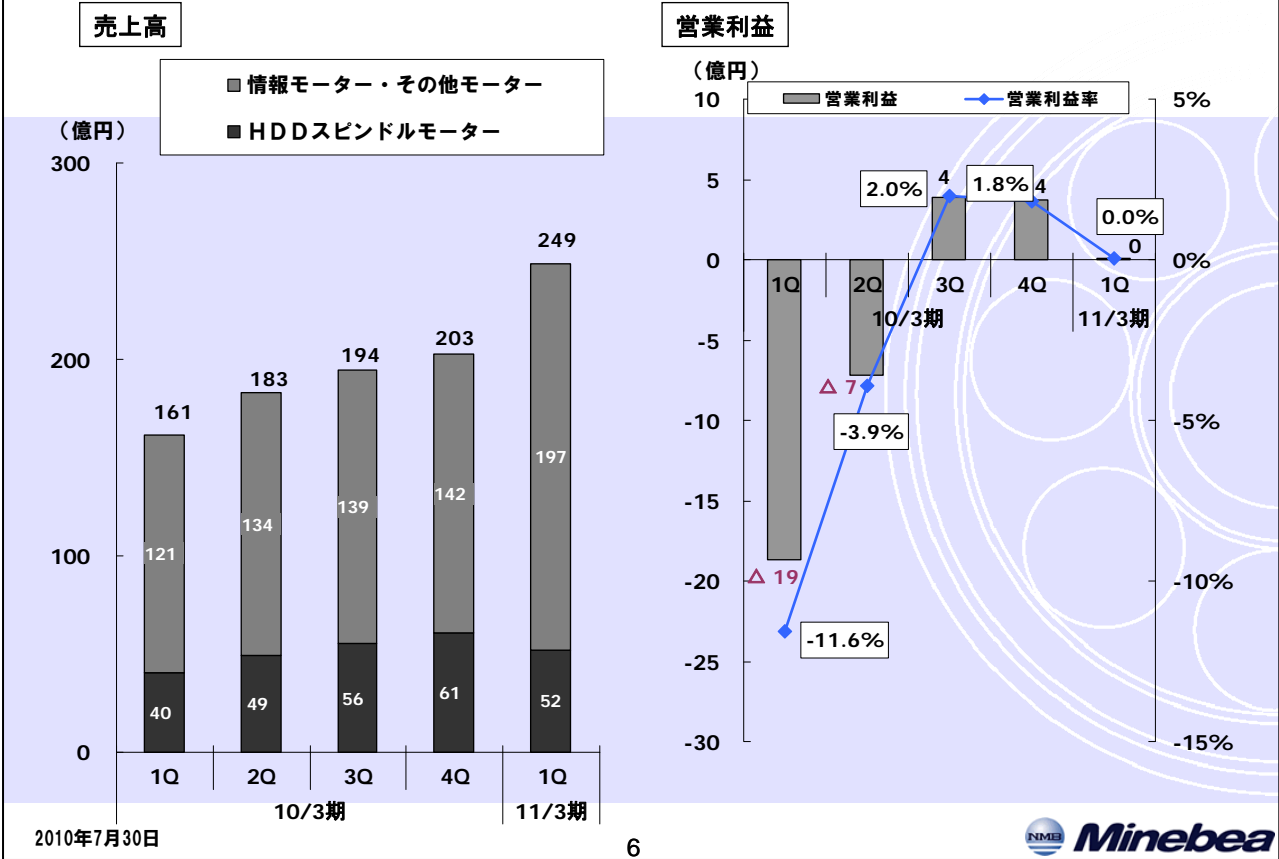


機械加工品事業セグメントの状況は、第1四半期の売上高は前四半期比5.6%増の282億円となり、営業利益も前四半期比3.2%増の71億円となりました。営業利益率はパーツ高の影響もあり、0.6ポイント低下の25.2%となりました。

製品別では、ボールベアリングの第1四半期売上高は前四半期比6.7%増加の160億円となりました。利益面でも前四半期に比べて利益が増加しました。パーツ高の影響があったものの、生産・販売数量共に増加しており、売上増加に加え、製造原価の低下が利益を押し上げています。

ロッドエンド・ファスナーの第1四半期売上高は、前四半期比2.1%増加の48億円となりました。利益面では前四半期に比べ利益が減少しました。

ピボットアッセンブリーの第1四半期売上高は、前四半期比5.7%増加の74億円となりました。6月にはHDD市場の在庫調整の影響があったものの、四半期全体では販売数量が前四半期より増加したことによるものです。利益面では、前四半期に比べて若干減少となりました。これは増産機械導入による一時的費用の増加、またこれにより生産効率が低下したことが主な要因です。

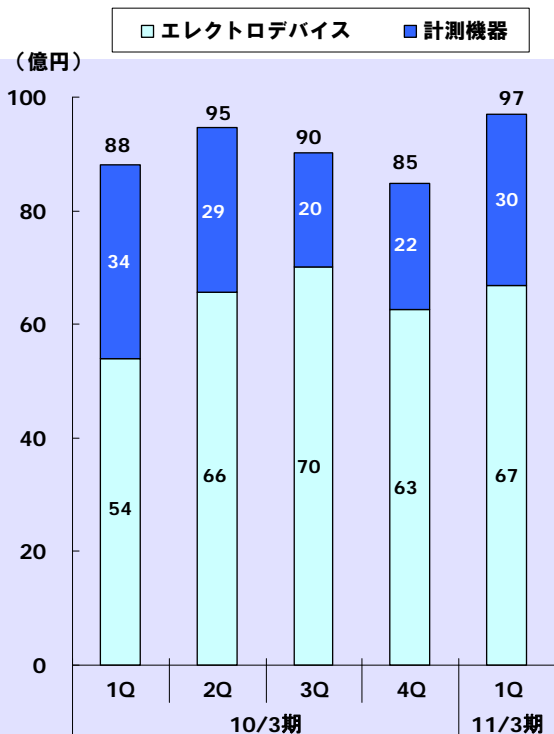


回転機器事業セグメントの状況は、第1四半期の売上高は前四半期比22.6%増の249億円となりました。しかし、営業利益は収支均衡となりました。

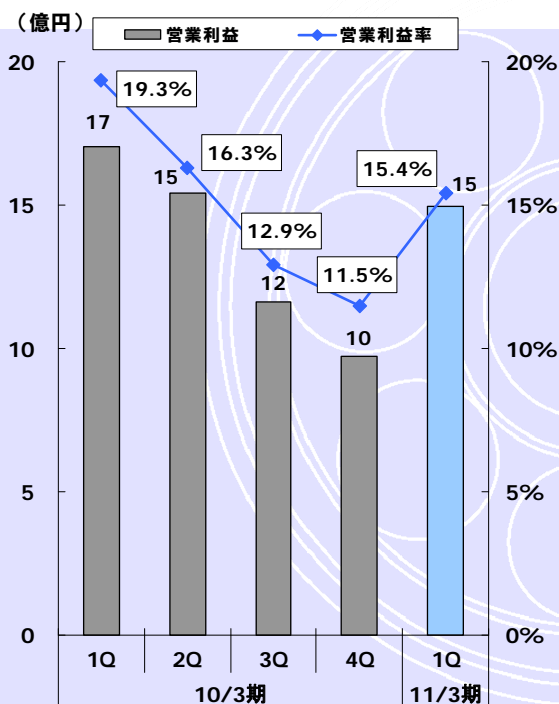
製品別では、HDDスピンドルモーターの第1四半期売上高は、前四半期比14.8%減少の52億円となりました。利益面でも前四半期に比べて損失が大きく膨らみました。これは増産対応のため中古機械を導入中で一時的費用が増加したこと、生産ラインの大幅な再配置を実施中で生産効率が低下していること、また6月にはHDD市場の在庫調整に伴う大幅な販売減少により損失が大きく拡大したことが影響しました。

情報モーター・その他モーターの第1四半期売上高は、前四半期比38.7%増加の197億円となりました。利益面でも前四半期に比べ増加となりました。精密モーターは収益が悪化しましたが、今期より加わったDCブラシレスモーターが貢献しました。

売上高



営業利益



2010年7月30日

7



電子機器事業セグメントの状況については、第1四半期の売上高は前四半期に比べて14.4%増の97億円となりました。営業利益も、前四半期に比べて53.8%増の15億円となり、営業利益率も3.9ポイント上昇の15.4%となりました。

製品別では、エレクトロデバイスの第1四半期売上高は前四半期比6.3%増加の67億円となりました。利益面でも前四半期に比べ増加しました。

計測機器の第1四半期売上高は、前四半期比36.4%増加の30億円となりました。利益面でも、前四半期に比べ利益は増加しました。これは工作機械向けの受注が回復してきたことと、一部ゲーム機向けの販売が改善したことが主な要因です。

その他事業

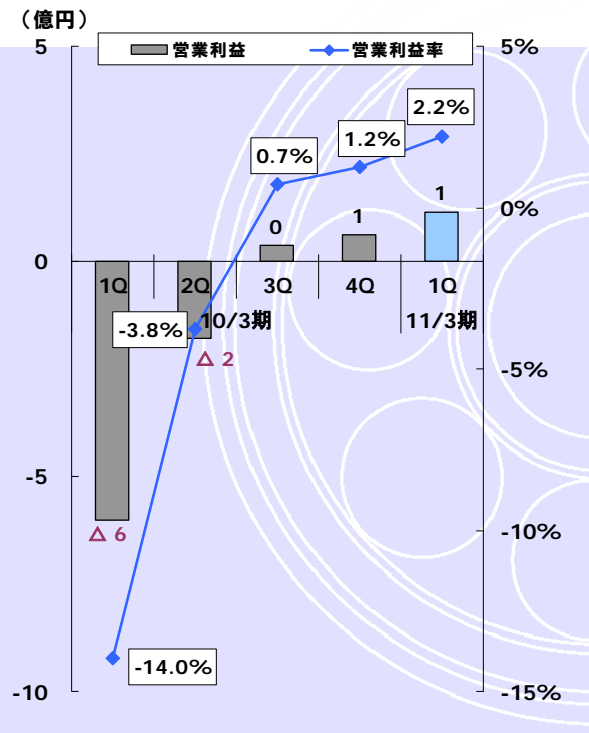
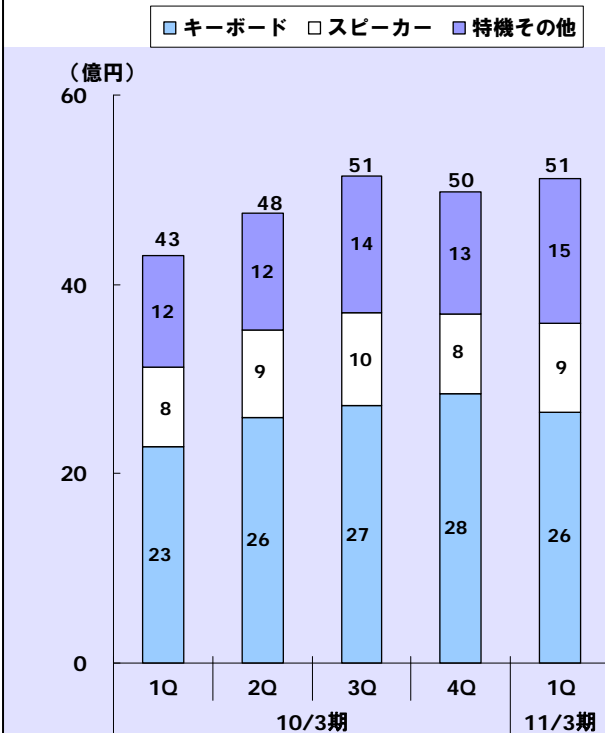
セグメント別

※新セグメントによる2010年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

四半期推移

売上高

営業利益



2010年7月30日

8



その他事業セグメントの状況についてご説明します。

第1四半期の売上高は、前四半期に比べて2.7%増の51億円となりました。営業利益も前四半期に比べて86.7%増の1億円となり、営業利益率も1.0ポイント上昇の2.2%となりました。

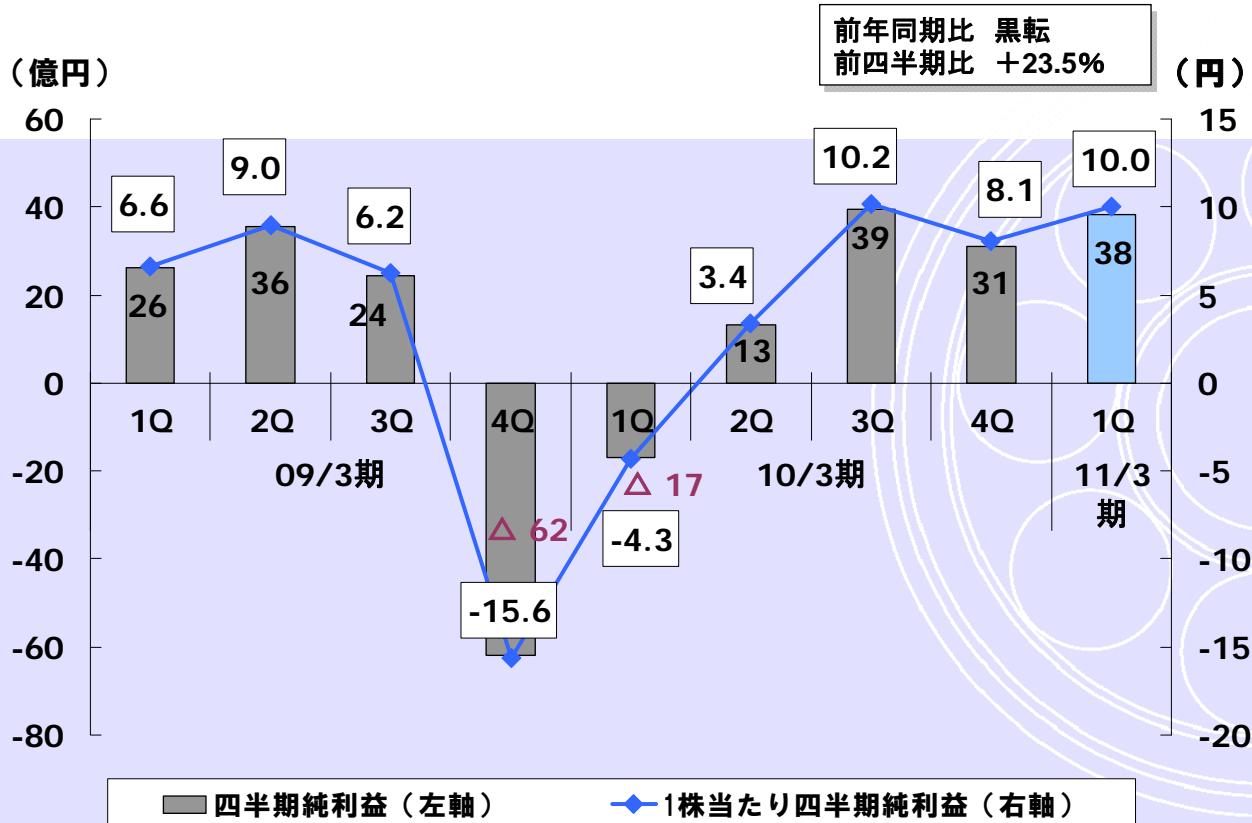
製品別では、キーボードの第1四半期売上高は、前四半期比7.1%減少の26億円となりました。利益面では、前四半期に比べてほぼ横ばいとなりました。

スピーカーの第1四半期売上高は、前四半期比12.5%増加の9億円となりました。利益面では若干の赤字が続きました。

特機その他の第1四半期売上高は、前四半期比15.4%増加の15億円となりました。利益面でも前四半期に比べ利益は若干増加しました。

純利益

四半期推移



2010年7月30日

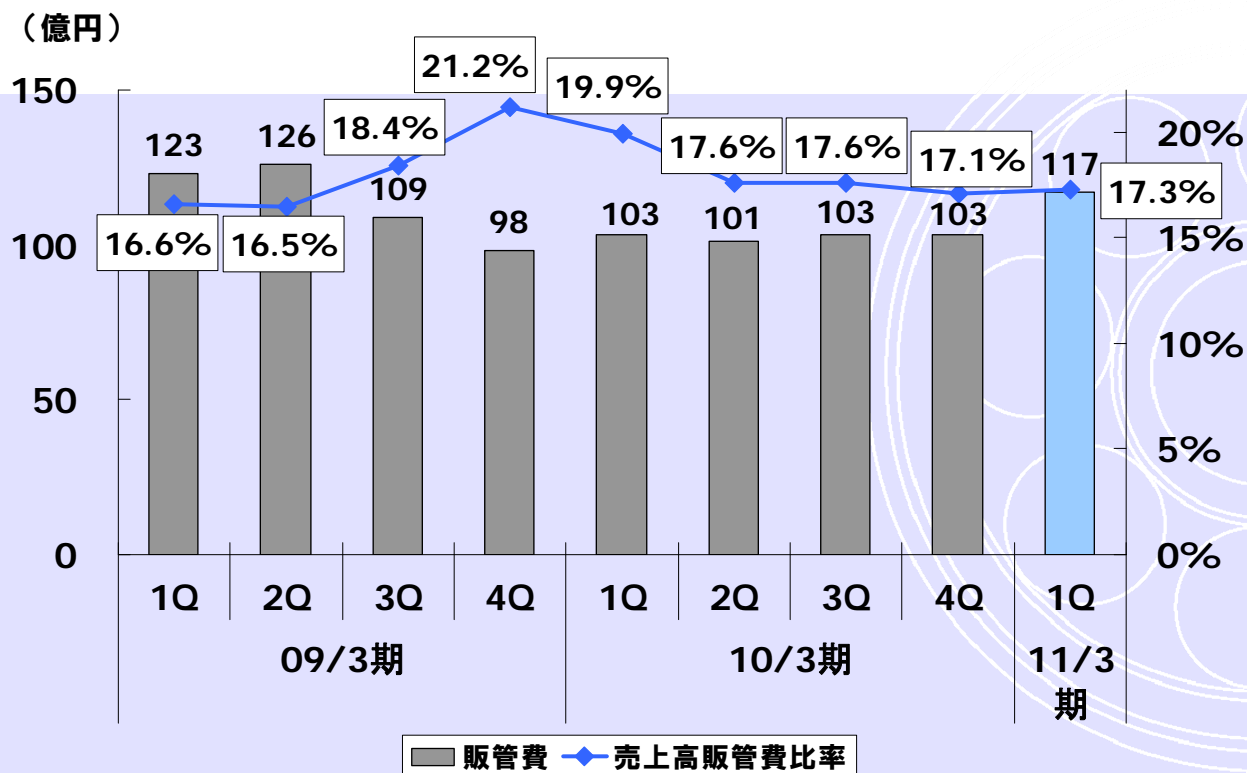
9



今期第1四半期の純利益は、前四半期比23.5%増の38億円となりました。

販管費

四半期推移



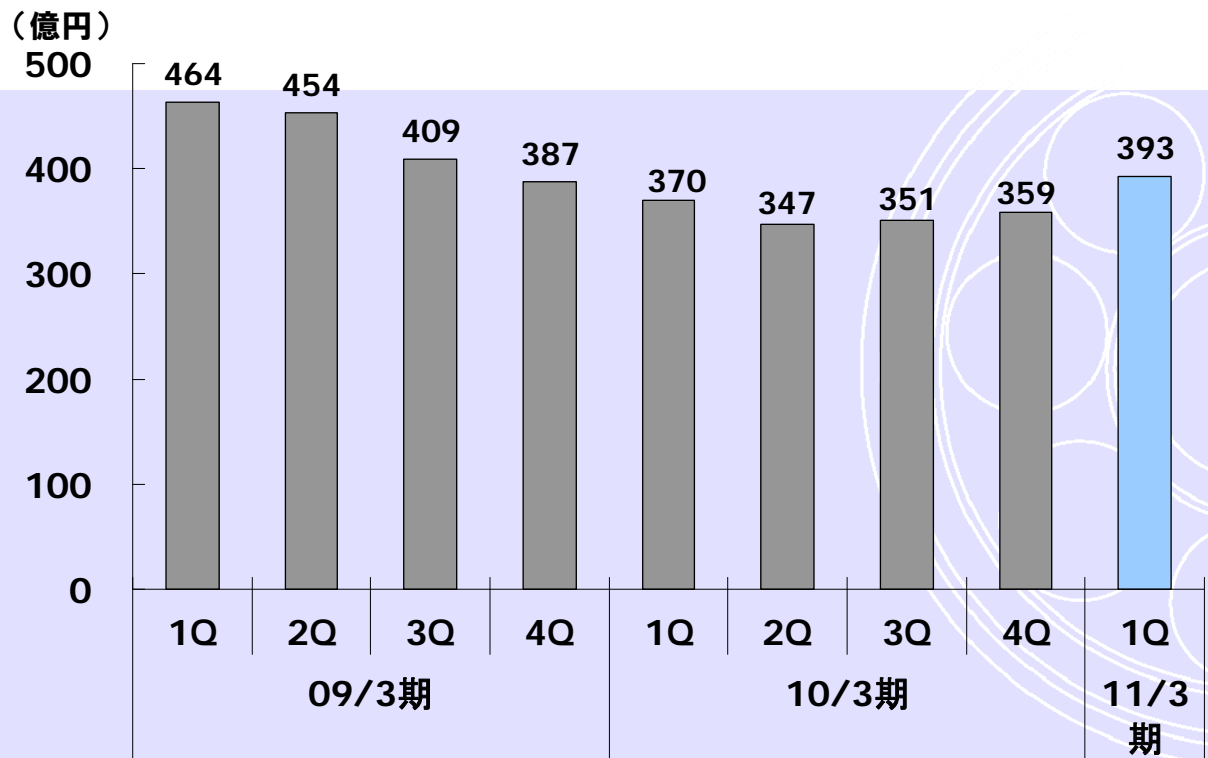
2010年7月30日

10



今期第1四半期の販管費は、主に売上高が増加したことに伴い117億円となりました。売上高販管比率は前四半期比ほぼ横ばいの17.3%となっております。

今後ともトップダウンとボトムアップの双方から、販管費の抑制に努めていきます。

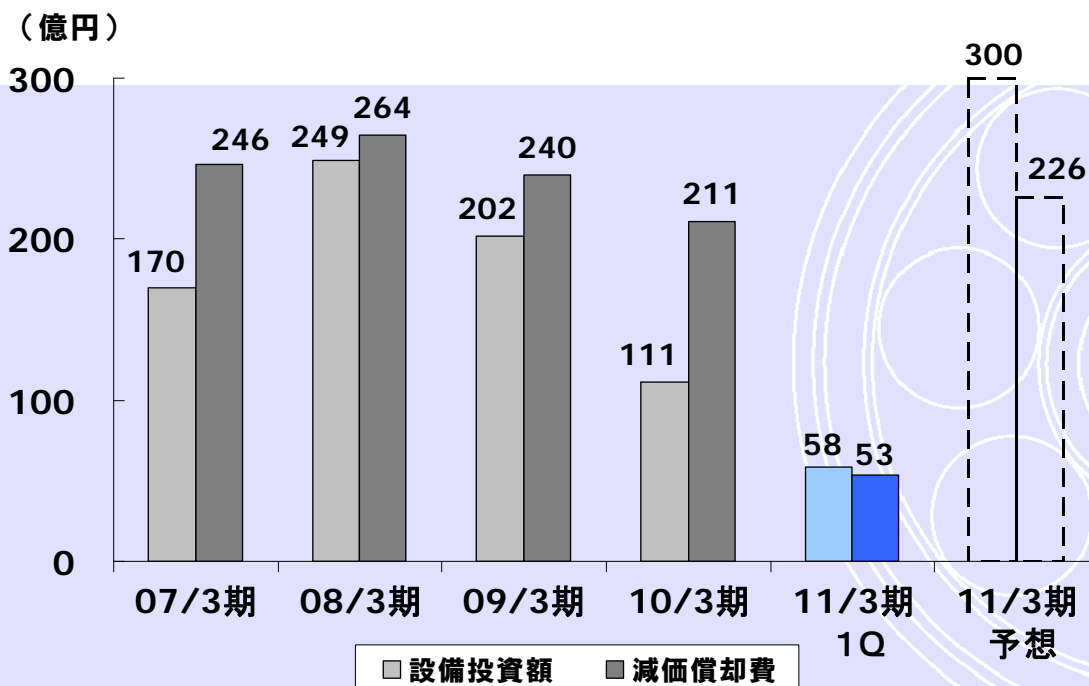


2010年7月30日

11



今期第1四半期たな卸資産は、前四半期比34億円増加しました。これは、売上高の増加に伴う在庫増に加え、情報モーター事業における事業移管があったことが主な要因です。



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2010年7月30日

12

NMB Minebea

設備投資について、前期は世界同時不況という経済環境を踏まえ、大きく抑制していましたが、世界経済の回復、市場の拡大を見据え、今期は300億円という積極的な設備投資を計画しています。

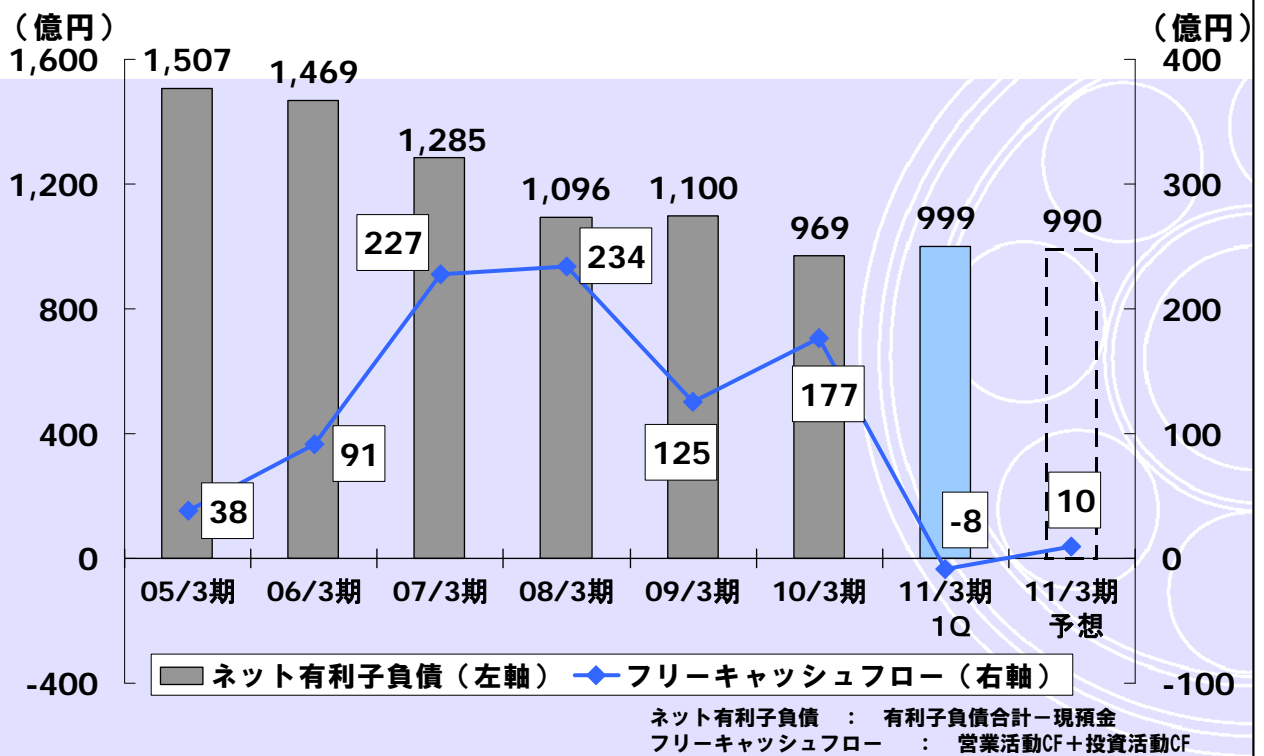
今期第1四半期における設備投資は58億円となりました。主な投資先としては、ピボットアッセンブリー、HDDスピンドルモーターの増産投資のほか、タイにおけるモーター生産ラインの再編を実施中です。

今後におきましては、ボールベアリング、ピボットアッセンブリー、LEDバックライトの新工場等を計画しております。

なお、今期第1四半期における減価償却費は53億円でした。

ネット有利子負債

年推移



2010年7月30日

13



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

今期第1四半期末におけるネット有利子負債は、999億円となり、前期末比30億円の増加となりました。売上の拡大に伴う運転資金の増加や配当金、賞与の支払い、設備投資の増加によるものです。

今後ともキャッシュフロー創出に注力していきますが、今期は増産投資を中心に設備投資が前年比約190億円増加する見込みですので、フリーキャッシュフローは、10億円となる見込みです。一方で、中期の成長に向けて、新たな投資案件も積極的に検討していきます。

業績予想

期初業績予想からの変更はありません

(百万円)	2010年3月期	2011年3月期	2011年3月期予想				前期比
	通期	1Q	上半期	上半期進捗率 1Q/上半期	下半期	通期	
売上高	228,446	67,891	129,000	53%	136,000	265,000	+16.0%
営業利益	12,059	6,024	10,900	55%	12,600	23,500	+94.9%
経常利益	10,203	5,600	9,900	57%	11,600	21,500	2.1倍
税引前利益	9,261	5,592	7,800	72%	11,500	19,300	2.1倍
純利益	6,662	3,815	4,700	81%	7,800	12,500	+87.6%
一株当たり 純利益(円)	17.20	9.99	12.31	81%	20.42	32.73	+90.3%

為替レート	10/3期	11/3期想定
US\$	93.04円	90.00円
ユーロ	131.10円	132.00円
タイバーツ	2.74円	2.65円
人民元	13.61円	13.00円

2010年7月30日

14



今期はご説明しましたとおり第1四半期の業績は堅調であります。また為替の影響や原材料価格など不透明な部分もあり、現段階では今期業績予想につきまして、5月に発表致しました損益数値のままとします。

トピックス:ボールベアリング新工場建設

総投資額： 180億円

生産能力： 月産4,000万個（ボールベアリング総能力月産2億6,000万個）

建設予定地： タイ バンパイン工場

建屋面積： 20,500㎡（延長分）

特徴： 現バンパイン切削・プレス工場を延長した一貫生産工場

現バンパイン切削・プレス工場と同様に省エネ仕様

（省エネ削減目標：既存工場比40%）

既存工場と受電系統を分けリスク回避を行う

稼働開始予定：2011年秋

新ボールベアリング工場建設予定地



2010年7月30日

15

 Minebea

HDD市場の中長期的な拡大によるピボットアッセンブリーの販売拡大や世界景気の回復によるボールベアリング需要の増加に対応するため、18年ぶりとなるボールベアリング新工場の建設を正式決定しました。

2011年秋の稼働開始を予定しており、2013年3月期には月産4,000万個の生産能力となる計画です。これにより、ミネベア全体でのボールベアリング生産能力は月産2億6,000万個に拡大することになります。

場所はタイのバンパイン工場で、ボールベアリング切削・プレス専用工場として2008年から稼働している工場を延長し、組立までの一貫生産工場とします。切削・プレス専用工場と同様に省エネ仕様とし、その他のバンパイン工場とは受電系統を分割するリスク対策も施します。

トピックス:ピボットアッセンブリー新工場建設

総投資額： 150億円

生産能力： 月産1,500万個（ピボットアッセンブリー総能力月産5,500万個）

建設予定地： タイ ロップリ工場

建屋面積： 18,430㎡

特徴： 加工～組立までの一貫生産工場

稼動開始予定： 2011年夏

新ピボットアッセンブリー工場建設予定地



2010年7月30日

16

 Minebea

今後のHDD市場は中期的に高い成長が見込まれ、それに伴って重要部品であるピボットアッセンブリーの増産要求も高まっています。これに対応するため、タイのロップリ工場に新工場を建設することを決定いたしました。

2011年夏に稼動を開始し、加工から組立までの一貫生産工場として2013年3月期には月産1,500万個の生産能力となる計画です。

この新工場により、ミネベア全体では月産5,500万個の生産能力となります。

トピックス: ロッドエンド関連新工場の稼働率改善

軽井沢ロッドエンド新工場：2009年3月に完成

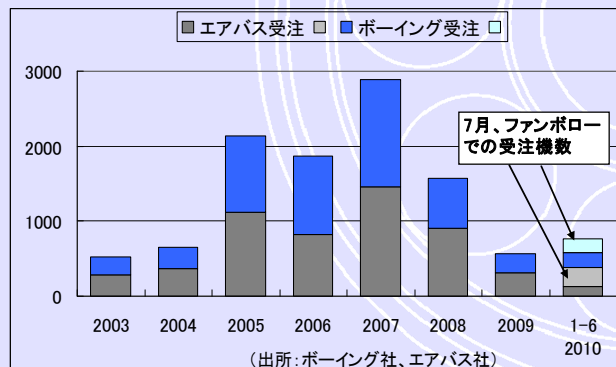
藤沢新航機工場（表面仕上げ）：2010年3月に新規設備完成

7月に英国で開催された「ファンボロー国際航空ショー」期間中に、ボーイング社が193機、エアバス社が255機を受注し、民間航空機需要の急回復を強く印象づけた。

当社では来年末と見ていたフル稼働の生産水準への回復が早まる見込み



軽井沢ロッドエンド新工場



ボーイングとエアバスの民間航空機受注機数

2010年7月30日

17

Minebea

当社では航空機需要の中長期的な成長に対応し、既に2009年3月に軽井沢ロッドエンド新工場を完成し、また、2010年3月に藤沢新航機工場に表面仕上げ工程の新規設備を完成しました。

米国の金融危機に端を発する世界不況により、民間航空機受注は大きく落ち込んでいましたが、世界景気が徐々に回復するとともに、今年に入って民間航空機受注は急回復しています。

7月に英国で開催された「ファンボロー国際航空ショー」期間中に、ボーイング社が193機、エアバス社が255機を受注し、民間航空機需要の急回復を強く印象づけることとなりました。

これにより、当社ではこれまで来年末と見ていたフル稼働の生産水準への回復が、早まることになると考えています。

トピックス:LEDバックライト新工場設立

新工場による生産能力増強でLEDバックライト総能力月産3,000万個に拡大

蘇州工場（中国江蘇省蘇州市）

生産能力： 月産1,000万個

特徴： 成型～組立までの
一貫生産工場

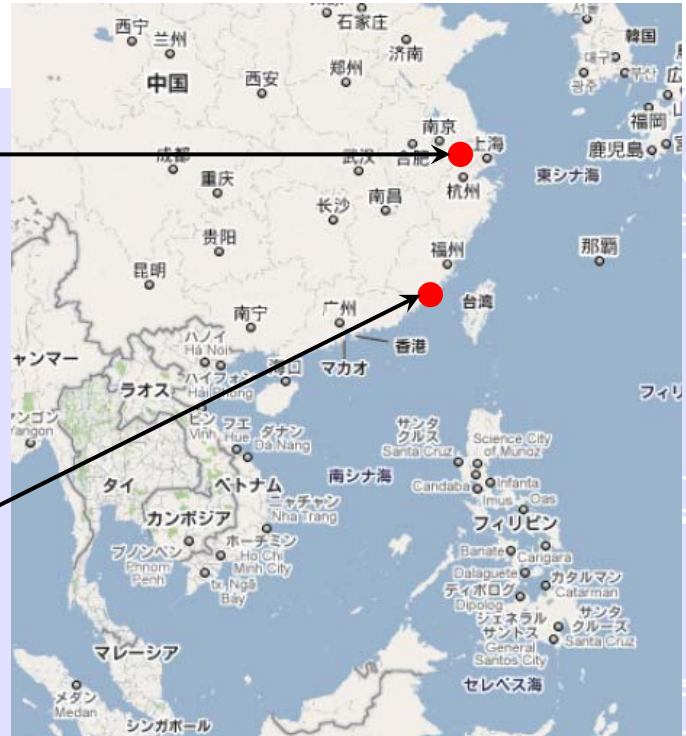
稼動開始予定：2011年2月

廈門工場（中国福建省廈門市）

生産能力： 月産200万個

特徴： 組立工場

稼動開始予定：2010年10月



(出所:Google 地図データ)

2010年7月30日

18

NMB Minebea

LEDバックライトは、客先からの引合いが非常に強く、早期の増産を求められています。これを受け、中国の廈門市と蘇州市に新工場を設立することとしました。

廈門工場の月産200万個、蘇州工場の月産1,000万個の生産能力が加わることで、2011年夏にミネベア全体で月産3,000万個の生産能力となる計画です。

これら新工場への積極投資により、拡大する市場に確実に対応し、将来のミネベアの業績拡大の基盤づくりに努めていきます。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。